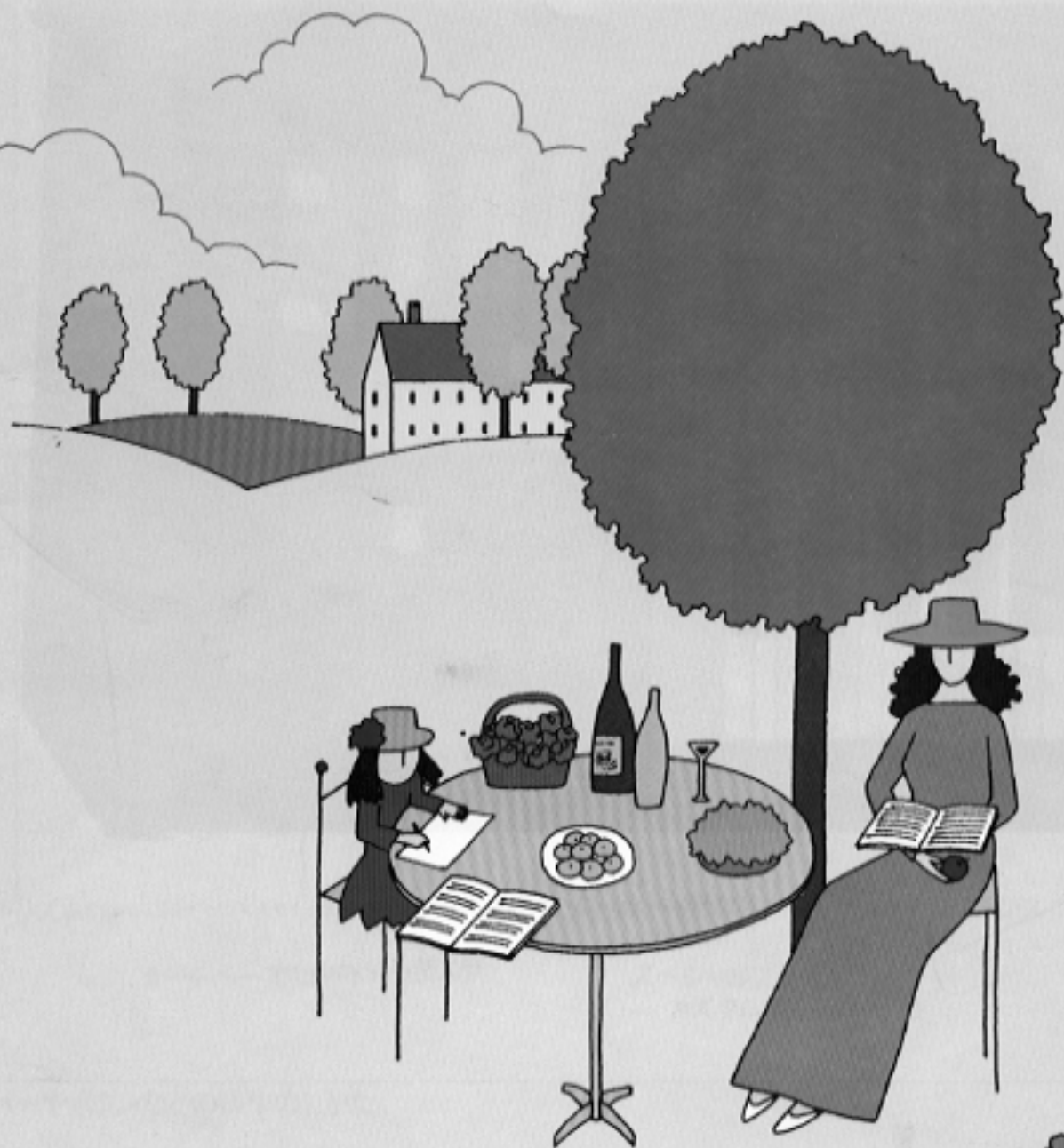


YAMAHA ELECTONE.

B-103

取扱説明書



このたびはヤマハエレクトーンをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。

エレクトーンB-103は、永年つちかかってきた楽器づくりの経験と技術をもとに、時代の先端をいく電子テクノロジーをふんだんにとりいれて完成させた最新型の電子オルガンです。特に、ヤマハが独自に開発したデジタル技術によって実現した「自然で生き生きとした音」「豊かな響き」は、どなたにもご満足いただけることと思います。さらに初心者の方でも手軽に楽しめる自動伴奏機能をとりいれていますので、ご家族全員でご愛用いただけます。演奏にあたりましては、その多彩な機能を存分にお楽しみいただくため、あらかじめ本書をご一読くださいますよう、お願いいたします。

目次

1. まず音をだしてみよう。—————	1
2. いろいろな音色をつくってみよう。—————	2
3. 音に表情をつけて、豊かな響きに。—————	6
4. メロディーにハーモニーがつけられます。—————	8
5. リズムを加えてみましょう。—————	10
6. 自動伴奏を楽しみましょう。—————	12
● 付属端子と音のエチケットについて—————	16
● 仕様と音域表—————	17
● エレクトーン教室のご案内—————	18
● 末永くお楽しみいただくために—————	19
● このような現象は故障ではありません—————	20
● サービスと保証について—————	22
● エレクトーン豆知識—————	24

レバーやボタンの名称。 ()内は本書で説明しているページ数です。

ペダル鍵盤トーンレバー (5ページ)

ビブラート (6ページ)

下鍵盤トーンレバー (5ページ)

上鍵盤トーンレバー (2ページ)



オートリズム (10ページ)

トレモロ/シンフォニックコーラス (6ページ)

マニュアルバランス (5ページ)

オートベース/コード (12ページ)

スペシャルプリセット (3ページ)
カスタムボイス (4ページ)

★レバーやボタンなどの操作のしかた

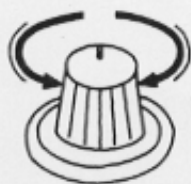
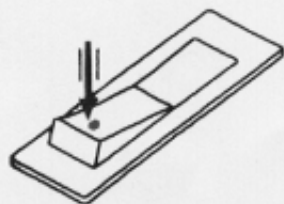
電源スイッチ

つまみ

エクスプレッションペダルと
フットスイッチ

トーンレバー

セレクトボタン



YAMAHA ELECTONE
B-103

マスターボリューム (1ページ)

電源スイッチ (1ページ)

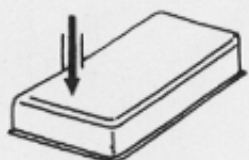


メロディーオンコード (8ページ)

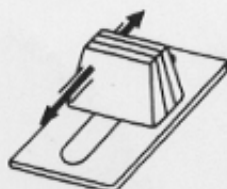
パイロットランプ (1ページ)

サステイン (7ページ)

タブレットスイッチ



スライドレバー



マニュアルバランスレバー

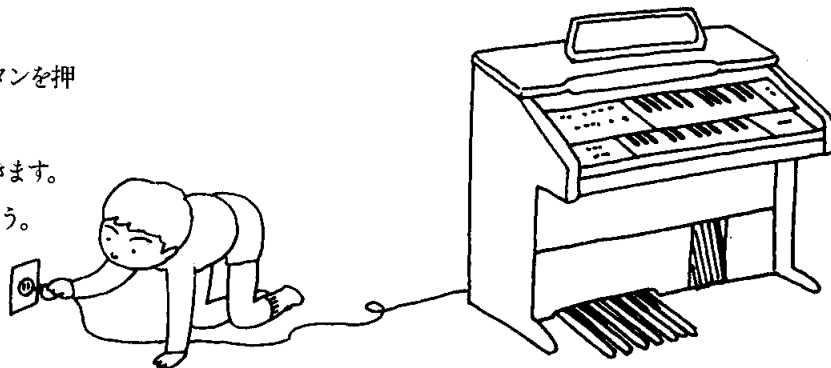


ニーレバー



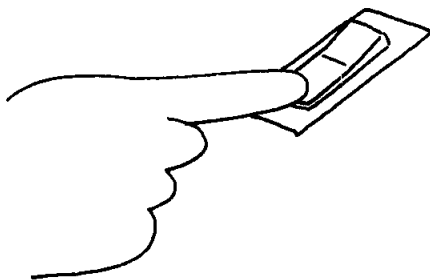
1 まず音をだしてみよう。

- ①から⑤の順に操作してください。
 - トーンレバー以外のボタンやタブレットスイッチは、すべてOFFの状態にしてください。
 - スペシャルプリセット、カスタムボイスはキャンセルのボタンを押しておきます。
 - オートベース/コードはノーマルの黒いボタンを押しておきます。
 - マニュアルバランスは、中央の位置にセットしておきましょう。
- 電源プラグをコンセントにさしこみます。**



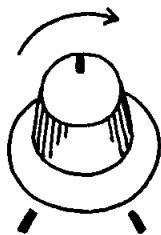
1 電源スイッチ (POWER)を入れます。

パイロットランプが点灯します。



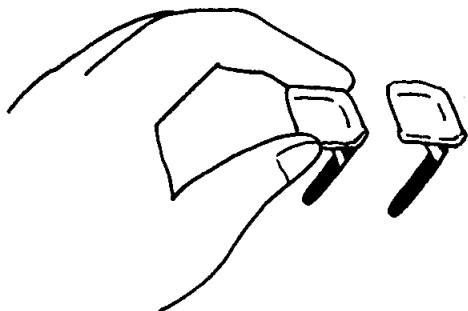
2 ボリュームのつまみ (MASTER VOLUME)を中央ぐらいにセットします。

このつまみでエレクトーン全体の音量が調節できます。



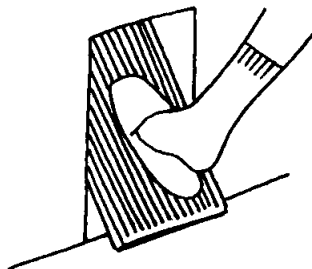
3 音色をセットします。

ここでは、上鍵盤・下鍵盤・ペダル鍵盤の音として、それぞれのトーンレバーをセットしてみましょう。



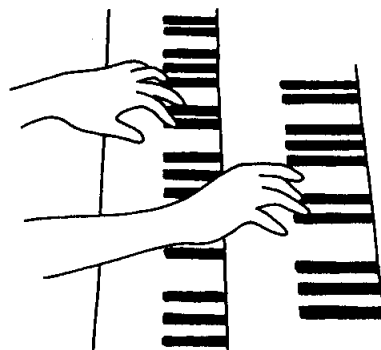
4 エクスプレッションペダルを踏みこみます。

これもエレクトーン全体の音量をコントロールするもので、演奏しながら音に強弱がつけられます。

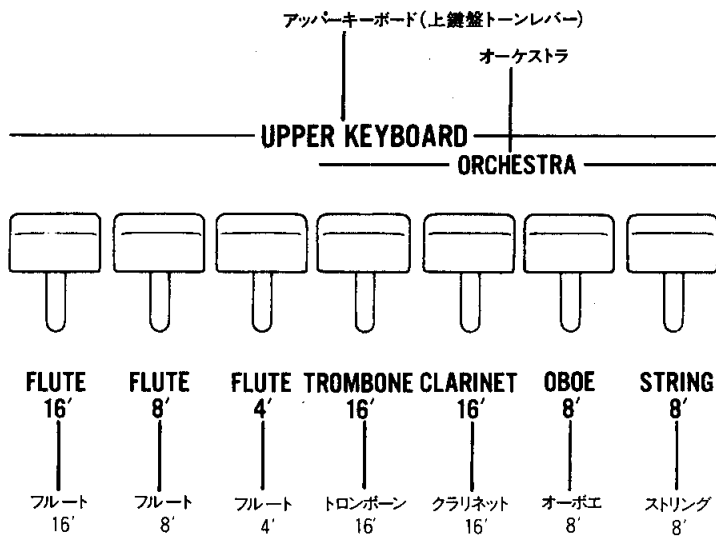


5 鍵盤を弾いてみましょう。

右手で上鍵盤、左手で下鍵盤、左足でペダル鍵盤をそれぞれ弾いてください。右足ではエクスプレッションペダルを操作します。それぞれ音がでてきたことと思います。



2 いろいろな音色をつくってみましょう。



上鍵盤トーンレバー

上鍵盤からはいろいろな音色がだせますが、まず、オルガン的な音をつくるトーンレバーからみていくことにしましょう。

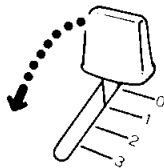
① ほしい音色のレバーを手前に引いてみましょう。

フルート系は白、管楽器系は赤、弦楽器系は黄色に、それぞれ色分けされています。また、管楽器系と弦楽器系をあわせてオーケストラ音色といいます。

② 上鍵盤をおさえると、セットした音色がでできます。

③ 音量を3段階にコントロールできます。

音色をセットするとともに、それぞれのレバーで音量も細かくコントロールできます。途中2カ所でレバーがセットできるリックストップ式になっていて、一番手前が最大の音量になります。



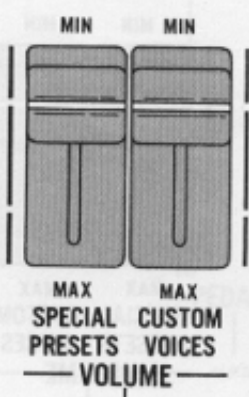
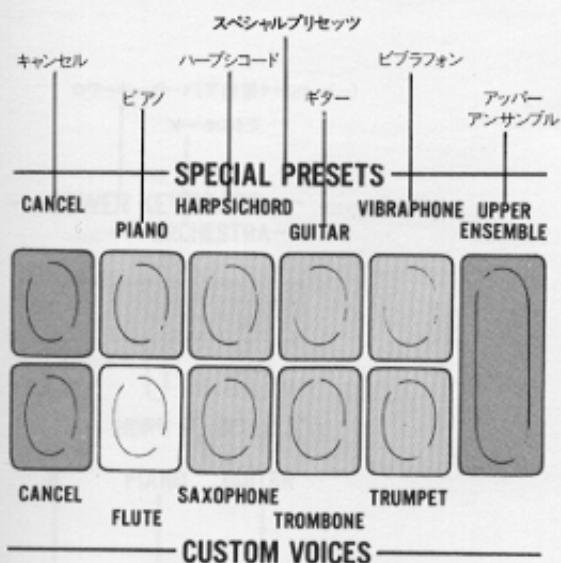
④ 何種類でも、自由に組み合わせられます。

付属の「楽しみましょうエレクトーン」を参考にして、いろいろな音をつくりだしてみましょう。

●カブラー効果とは。

楽器名の後の数字は音程を示すもので、8' (8フィート) が基準の音程です。例えば、フルート16'、8'、4' を一緒にセットすれば、1オクターブずつちがう3つの音を同時にだすことができ、より厚みのあるサウンドがつくりだせます。これをカブラー効果と呼んでいます。それぞれのフィートの音程と使われ方の例を示しておきましたので参考にしてください。

フィート	でてくる音の高さ	使われ方の例
16'	1オクターブ下	厚みのある響きにする
8'	基準の高さ	基本になる音
4'	1オクターブ上	強さと明るさを加える

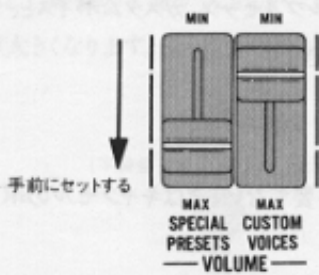


ボリューム

スペシャルプリセット

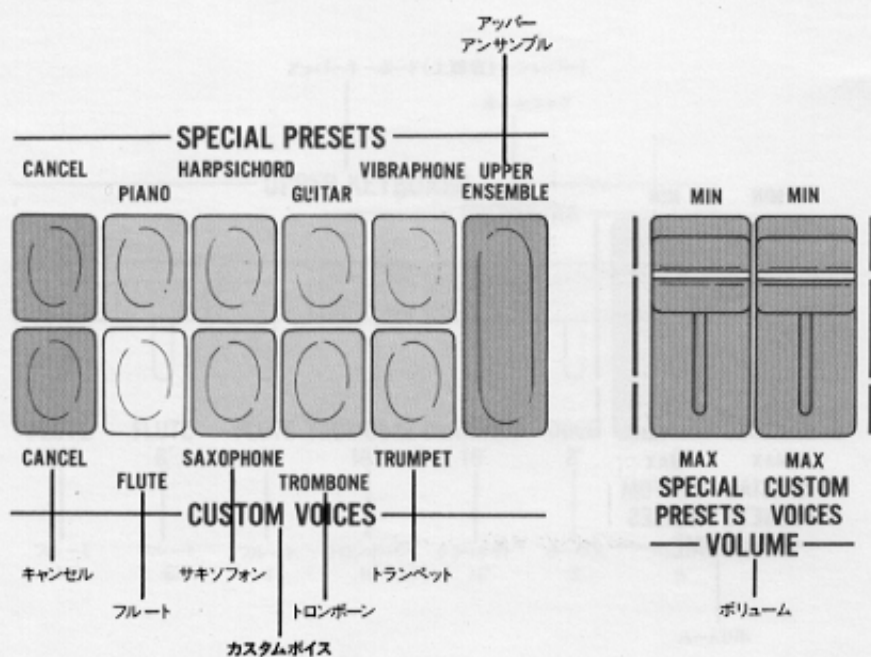
ピアノやヴィブラフォンなどいろいろな楽器特有の響きが、あらかじめセットされている音色です。

- ①音色をひとつ選びましょう。
4つの楽器音のなかから、だしてみたい音色のボタンをひとつ選んで押してください。
- ★2つ以上のボタンを一緒にセットすると、右側の音色が優先します。
- ②音量をコントロールします。
ボリュームのスライドレバーでスペシャルプリセットの音量を調節してください。手前にセットするほど音が大きくなります。



- ③上鍵盤をおさえると、選んだ音色がでできます。

- 上鍵盤トーンレバーと組み合わせてみましょう。
音色を選ぶボタンと一緒にアッパーアンサンブルのボタンを入れると、スペシャルプリセットと上鍵盤トーンレバーの音色が組み合わせられます。
- キャンセル
スペシャルプリセットの音が必要でないときは、キャンセルのボタンを入れてください。



カスタムボイス

いろいろな楽器特有の響きがセットされている音色ですが、音量、音色が微妙に変化するため、より実際の楽器音に近くなっています。カスタムボイスの音は単音ででてくるようになっていて、鍵盤をいくつか同時におさえると、一番高い音だけがでてきます。

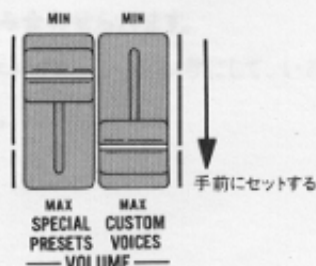
①音色をひとつ選びましょう。

4つの楽器音のなかから、だしてみたい音色のボタンをひとつ選んで押してください。

★2つ以上のボタンを一緒にセットすると、右側の音色が優先します。

②音量をコントロールします。

ボリュームのスライドレバーでカスタムボイスの音量を調節してください。手前にセットするほど音が大きくなります。



③上鍵盤をおさえると、選んだ音色がでてきます。

鍵盤をいくつか同時におさえると、一番高い音だけがでてきますので、ほかの音色と組み合わせてブロック奏をすれば、最高音のメロディー部だけにカスタムボイスの音色が重なり、立体的なサウンドが楽しめます。

★スペシャルプリセットのボタンを一緒にセットすると、スペシャルプリセットとカスタムボイスの音色を組み合わせることが出来ます。

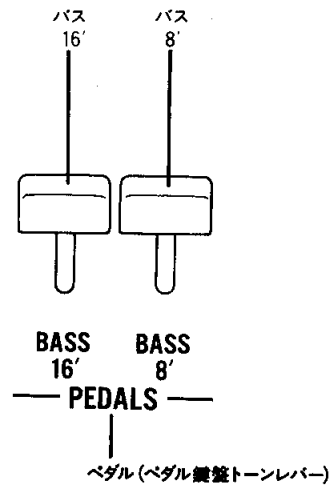
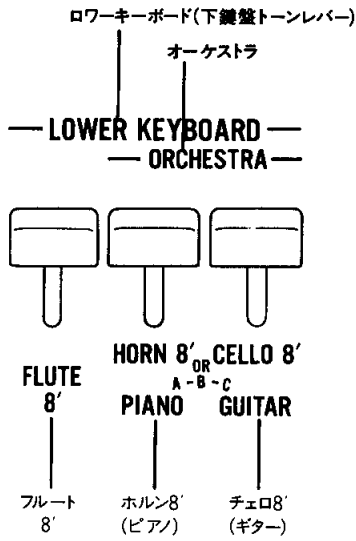
●上鍵盤トーンレバーと組み合わせてみましょう。

音色を選ぶボタンと一緒にアッパーアンサンプルのボタンを入れると、カスタムボイスと上鍵盤トーンレバーの音色が組み合わせられます。

また、スペシャルプリセットのボタンも合わせてセットすると、上鍵盤トーンレバー、スペシャルプリセット、カスタムボイスと、3つの音色を組み合わせることが出来ます。

●キャンセル

カスタムボイスの音が必要でないときはキャンセルのボタンを入れてください。



下鍵盤トーンレバー

下鍵盤から出す音色をセットするレバーで、上鍵盤トーンレバーと同じように、組み合わせることができます。

●ABCトーン

ホルン8'、チェロ8'の音色は、オートベース/コード(自動伴奏)を使うときに、下段の音色(ABCトーン)に切りかわります。

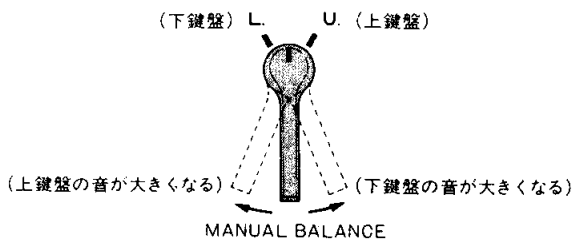
(12ページを参照してください)

ペダル鍵盤トーンレバー

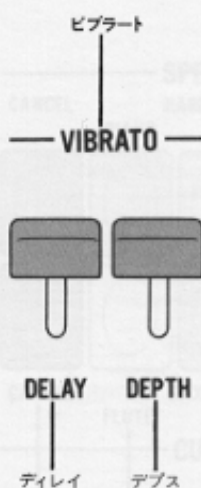
ペダル鍵盤から出す音色をセットするレバーで、組み合わせることもできます。

マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを調節するレバーです。U.の方へセットすると上鍵盤の音量が大きくなり、L.の方へセットすると下鍵盤の音量が大きくなります。ふつうは中央よりややU.よりの位置にセットします。



3 音に表情をつけて、豊かな響きに。



ビブラート

音をこきざみにふるわせ、うるおいをもたせる効果です。デプスとディレイの2つのレバーがありますが、セットのしかたによって次の2種類のビブラートが得られます。

●ふつうのビブラートをかけてみましょう。

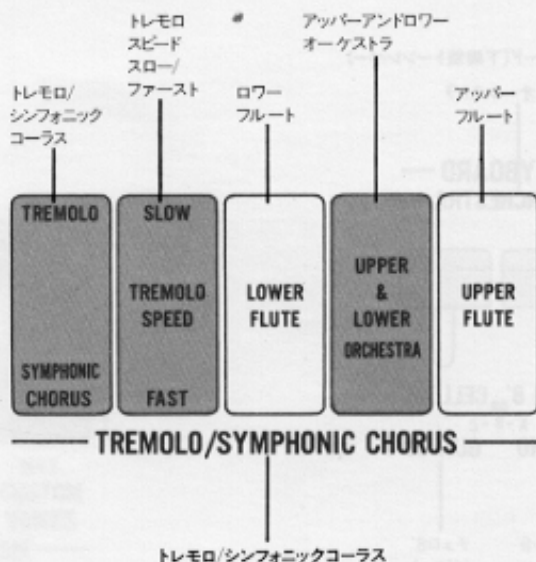
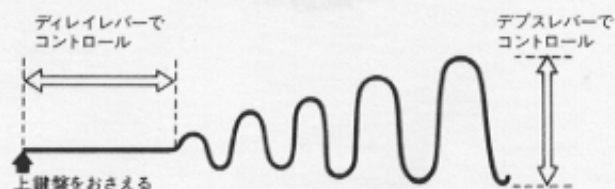
デプスのレバーを手前に引いただけで、上・下・ペダル鍵盤の音にビブラートがかかります。クリックストップ式になっていて、手前に引くほど音のふるえ方が大きくなります。

●ディレイビブラートをかけてみましょう。

デプスのレバーと一緒にディレイのレバーを入れると、上鍵盤の音にディレイビブラートがかかります。これは、上鍵盤をおさえてから、少しおくれで音がふるえはじめる効果で、ディレイのレバーを手前に引くほど、ふるえはじめるまでの時間が長くなります。ストリングの音色などにかけて、表情豊かな演奏をしてみましょう。

★ディレイビブラートは、デプスのレバーも一緒に入れなければなりません。

★上・下・ペダル鍵盤を同時に弾いているとき、下鍵盤とペダル鍵盤の音にも上鍵盤と同じタイミングでディレイビブラートがかかります。



トレモロ/シンフォニックコーラス

音にうねりや広がりをもたせ、豊かな響きにする効果です。5つのタブレットの操作によって、上・下鍵盤のトーンレバー音色にトレモロ効果、またはシンフォニックコーラス効果を加えることができます。

①まず、トレモロにするかシンフォニックコーラスにするかを決めましょう。

左端のトレモロ/シンフォニックコーラスのタブレットで選んでください。このタブレットを入れない状態では、トレモロ効果が得られ、入れた状態ではシンフォニックコーラス効果が得られます。トレモロは音をうねらせ、うるおいと広がりをもたせる効果で、シンフォニックコーラスは多くの楽器で合奏しているような豊かな響きにする効果です。

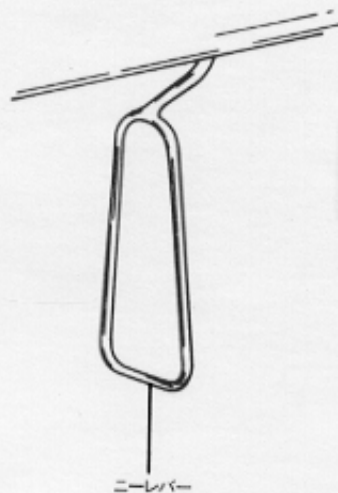
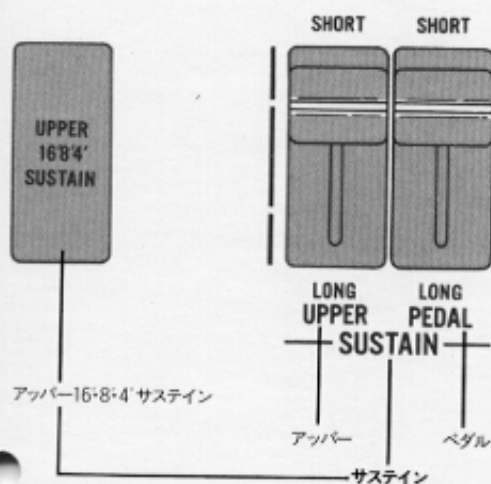
②トレモロを選んだ場合は、うねりの速さを決めます。

トレモロスピードスロー/ファーストのタブレットによって、トレモロの速さを決めてください。このタブレットを入れない状態では、ゆっくりとしたうねりになり、入れた状態では、速いうねりになります。

③効果をかける音色を選びましょう。

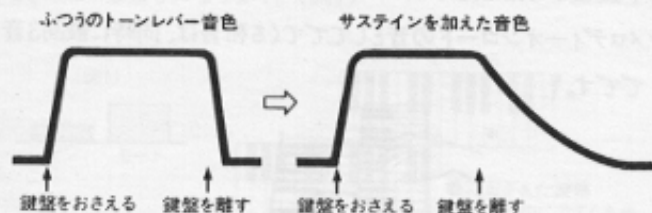
右側の3つのタブレットによって、トレモロまたはシンフォニックコーラスをかけるトーンレバー音色を選んでください。

タブレット	効果がかかる音色
アッパーフルート	上鍵盤トーンレバーのフルート音色
アッパーアンドロワーオーケストラ	上・下鍵盤トーンレバーのオーケストラ音色
ロワーフルート	下鍵盤トーンレバーのフルート音色



サステイン

鍵盤から指や足を離したあと、音に余韻をつける効果です。トーンレバー音色は、鍵盤から指や足を離すとすぐに消えてしましますが、サステイン効果を使えば余韻が残り、自然な感じで消えていきます。



上鍵盤の音にサステインをかけてみましょう。

アッパー16・8・4'サステインのタブレットを入れることでかかります。余韻の長さは、アッパーのスライドレバーでコントロールしてください。手前に引くほど、余韻が長くなります。このアッパーサステインがかかるのは、上鍵盤トーンレバーの音色と、スペシャルプリセットのピアノ、ハーブシコード、ギターの音色です。

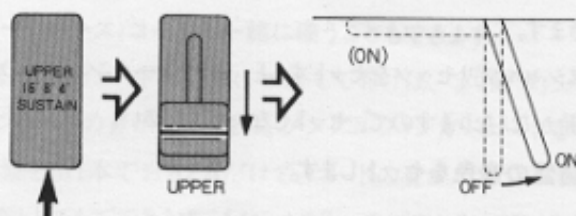
★スペシャルプリセットの音色にかかるサステインの長さは一定で、アッパーのスライドレバーで調節することはできませんが、アッパーアンサンプルのボタンを入れた場合は、トーンレバー音色と同様にサステインの長さを調節することができます。

●ペダル鍵盤の音にサステインをかけてみましょう。

ペダルのスライドレバーを手前に引くだけで、ペダル鍵盤の音にサステインがかかります。手前に引くほど、余韻が長くなります。

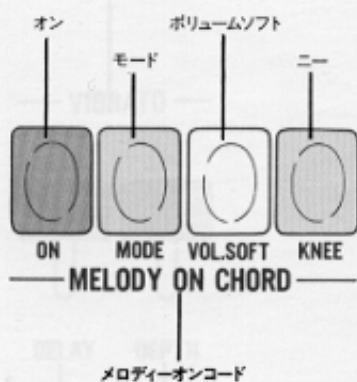
●ニールバーを使って、アッパーサステインをコントロールしてみましょう。

上鍵盤のサステイン効果は、ニールバーを使うことで、演奏中でも自由にかけることができます。まず、タブレットとスライドレバーでアッパーサステインをセットし、鍵盤の下にあるニールバーをおこしておきます。おこした状態ではサステインがかかりませんが、演奏中にサステインをかけたいところへきたらニールバーを右ひざで右に押ししてください。押ししている間だけサステインがかかります。



★スペシャルプリセットのピブラフォンの音色は、ニールバーの操作でサステインのコントロールができるようになります。

4 メロディーにハーモニーがつけられます。



メロディーオンコード

上鍵盤で弾くメロディーに、ハーモニーを自動的につける機能です。下鍵盤で弾くコードの音が、上鍵盤で弾く音の下に重なってでてきますから、初心者の方にはむずかしいメロディーのブロック奏が簡単に得られます。

①まず、オンのボタンを押しましょう。

②上鍵盤トーンレバーをセットします。

メロディーオンコードの音色として、上鍵盤トーンレバーをセットしてください。

★カスタムボイスの音色は、メロディーオンコードの音としてはできませんが、メロディーを弾く音色として、アンサンブルさせることができます。

★スペシャルプリセットをセットすると、メロディーオンコードの機能が動かなくなりますので、セットしないでください。

③下鍵盤の音色をセットします。

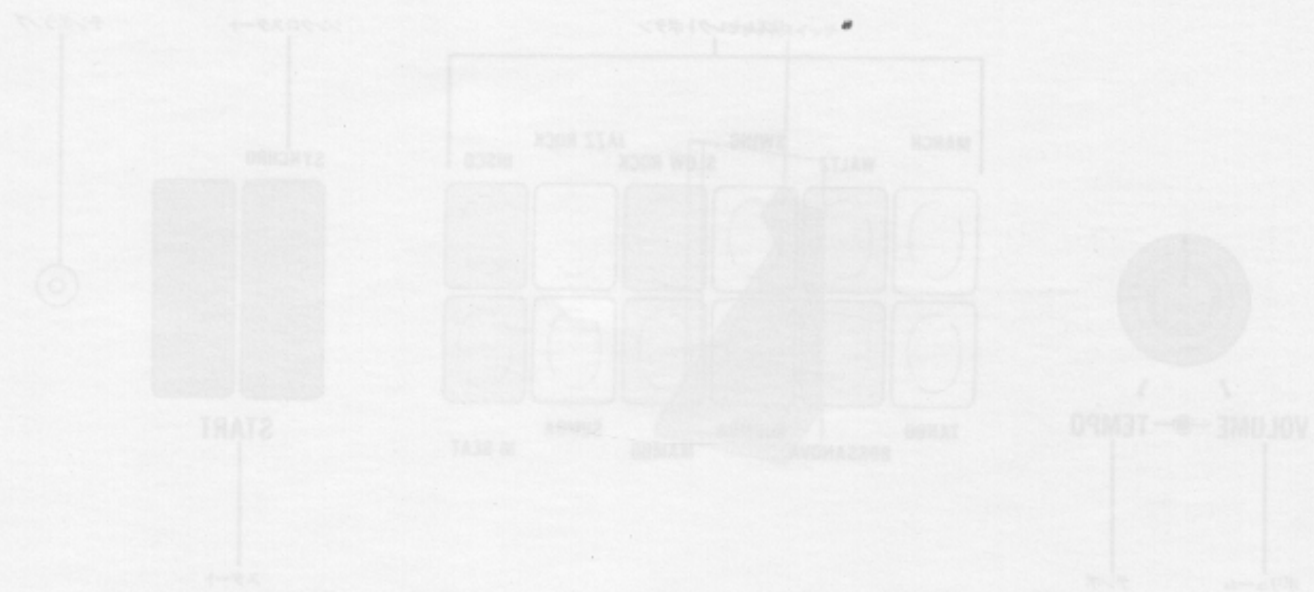
④下鍵盤でコードをおさえ、上鍵盤でメロディーを弾いてみましょう。

メロディーの下に美しいハーモニーが重なってでてきたことと思います。ハーモニーの音は、下鍵盤でおさえたコードと同じ音名の音になっています。

★下鍵盤から指を離すと、メロディーオンコードの音はでなくなります。

★メロディーオンコードの音としてでてくる和音は、同時に最高3音までです。





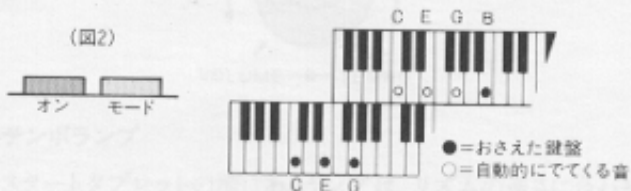
⑤ モードのボタンを押してみましょう。

モードのボタンは、メロディーオンコードの音がでてくる音域を変える動きをします。

モードを入れない状態では、ハーモニーがメロディーよりやや離れた広い音域からでてきて、上鍵盤でメロディーとコードを弾いたときのような響きになります。(図1)



モードのボタンを入れると、メロディーに近くてせまい音域からでてきて、上鍵盤でブロック奏をしているような響きになります。(図2)

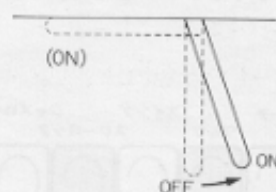


⑥ ボリュームソフトのボタンで音量を調節します。

メロディーオンコードの音は、上鍵盤で弾く音よりやや小さい音量ででてくるようになっていますが、ボリュームソフトのボタンを入れると、さらに音量を小さくすることができます。

● ニーレバーでメロデーオンコードがコントロールできます。

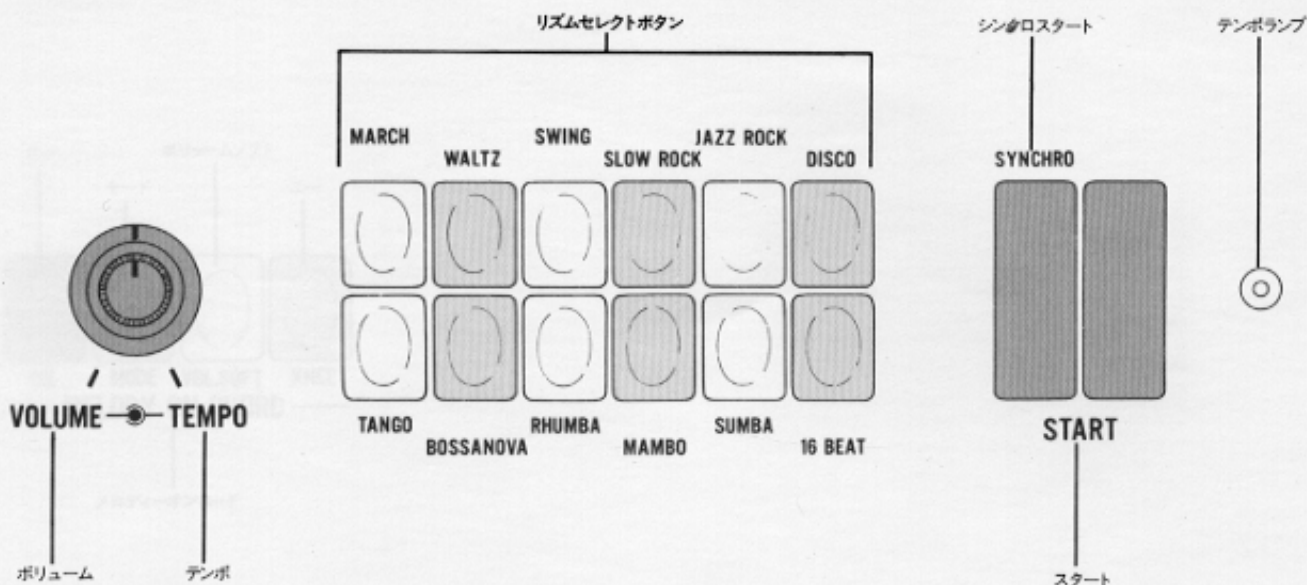
ニーのボタンを押しておけば、ニーレバーによって演奏中でも自由にメロディーオンコードが得られます。メロディーオンコードの音をだしたいところになったら、ニーレバーを右に押してください。押している間だけメロディーにハーモニーが重なります。なお、アッパーサステインをセットすれば、メロディーオンコードとサステインを同時にコントロールすることができます。



● オートベース/コードと一緒に使うこともできます。

オートベース/コードと一緒にセットしておけば、より簡単にメロディーオンコードの音が得られます。シングルフィンガーコードを入れ、下鍵盤を指1本でおさえるだけで、コードの音がメロディーオンコードの音としてもてきます。また、メモリーのボタンも一緒に入れておけば、下鍵盤から指を離してもメロディーオンコードの音が得られます。(12~14ページを参照してください)

5 リズムを加えてみましょう。

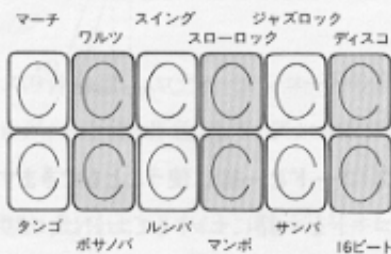


オートリズム

シンバル、ドラム、ボンゴといった打楽器の音で、自動的に歯切れのよいリズムをきざむ機能です。なお、オートベース/コードを使うときは、あらかじめオートリズムをセットしておきます。

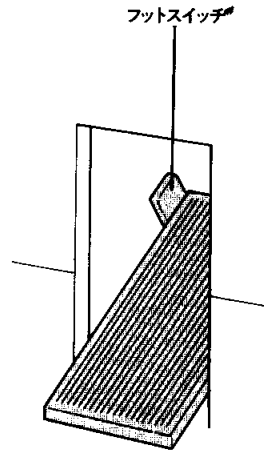
(12ページを参照してください)

- ①まず、リズムセレクトボタンによって、だしたいリズムを選びましょう。



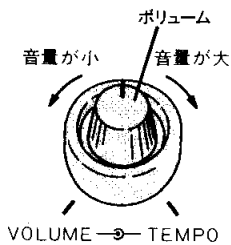
- ★2つ以上のボタンを一緒にセットすれば、リズムを組み合わせることができます。ただし、上・下に並んでいるボタンは組み合わせられません。

- ②スタートのタブレットを入れて、リズムをスタートさせましょう。2つのスタートタブレットのうち、右側のスタートを入れると選んだリズムがスタートします。
- シンクロスタート
スタートのかわりに、シンクロスタートのタブレットを入れると、リズムはすぐにスタートせず、下鍵盤かペダル鍵盤をおさえると同時にスタートします。オートベース/コードを使うとき、このシンクロスタートを入れておけば、自動伴奏とリズムを同時にスタートさせることができます。



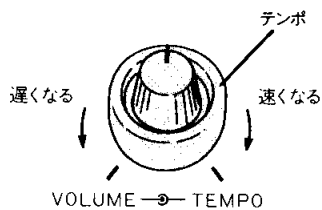
③ リズムの音量をコントロールします。

内側のボリュームのつまみでリズムの音量を調節してください。



④ リズムの速さをコントロールします。

外側のテンポのつまみで、リズムの速さを調節してください。



● テンポランプ

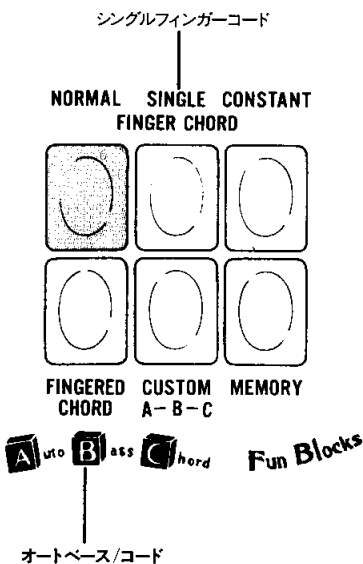
スタートタブレットの横にあるランプは、リズムの速さに合わせて点滅しますから、タイミングをとるのに便利です。スタートしているときはリズムの小節の1拍目に点滅しますが、シンクロススタートを入れて、まだスタートさせていない間は、4分音符の単位で点滅します。

フットスイッチ

エクスペッションペダルの左奥についているフットスイッチを使えば、必要なところでリズムをストップさせることができます。

リズムがスタートしているとき、このフットスイッチを左に押せばリズムが止まります。もう一度押せば再びスタートします。曲の終わりなどでお使いください。

6 自動伴奏を楽しみましょう。



オートベース/コード

下鍵盤で演奏するコード(和音)伴奏と、ペダル鍵盤で演奏するベース伴奏が自動的にでてくる機能です。初心者の方から、鍵盤楽器の経験がある方まで、どなたにもお楽しみいただけるように、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムABCの3つの使い方ができます。さらに、メモリーという便利な機能もついています。

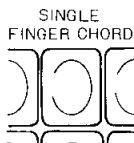
指1本で自動伴奏をだしてみよう。

シングルフィンガーコード

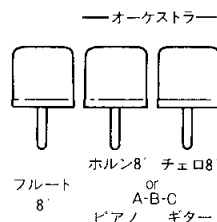
① オートリズムをセットしておきます。(10ページを参照してください)

シンクロススタートのタブレットを入れておけば、リズムと同時に自動伴奏をスタートさせることができます。

② 緑色のシングルフィンガーコードのボタンを押します。

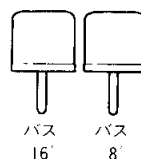


③ 下鍵盤トーンレバーをセットします。



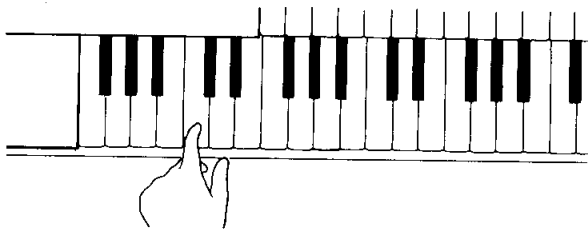
2つのオーケストラ音色をセットしてみましょう。これらの音色がそれぞれピアノ、ギターの音色(ABCトーン)に切りかわり、リズムに合わせて自動伴奏されます。なお、フルート音色はコードの持続音となります。

④ ペダル鍵盤トーンレバーをセットします。



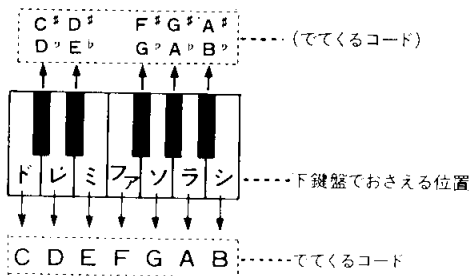
これらの音色が、リズムに合わせて自動的に演奏されるベース音になります。

⑤ 下鍵盤をひとつだけおさえてみましょう。



リズムに合わせて、コード伴奏とベース伴奏が自動的にでてきたことと思います。

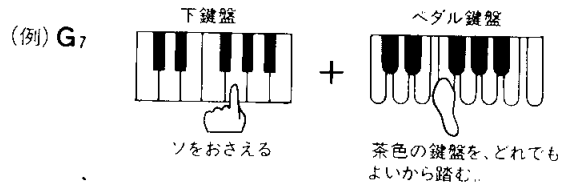
このときでてくるコードは、下鍵盤でおさえた音を根音とする和音(メジャーコード)になります。ですから、コードネームが書かれている楽譜で、C(ド・ミ・ソの和音)のところはドを、G(ソ・シ・レの和音)のところはソをおさえればよいわけです。



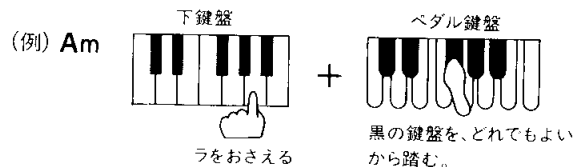
●セブンスコードやマイナーコードなどもだすことができます。

G₇ (ジーセブンスコード) や Am (エーマイナーコード) といったコードは、ペダル鍵盤と一緒に踏めばだすことができます。

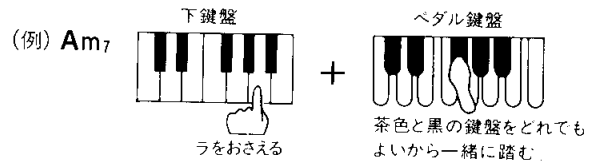
[セブンスコードの場合]

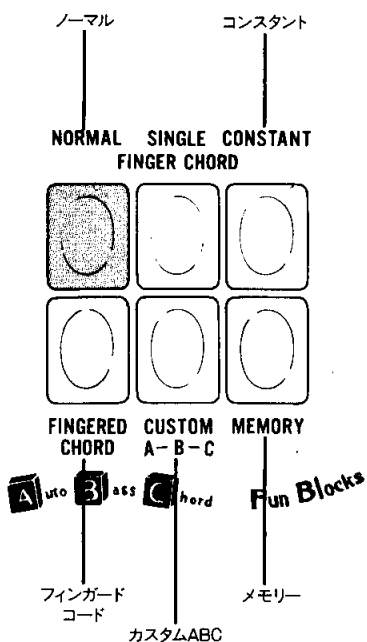


[マイナーコードの場合]



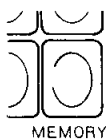
[マイナーセブンスコードの場合]





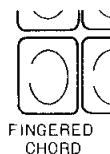
●メモリーを使ってみましょう。

メモリーのボタンを入れると、下鍵盤から指を離れたあとも自動伴奏がリズムとともに鳴り続けます。この機能を使うと、コードが変わるところだけで鍵盤をおさえなおせばよいわけです。なお、フィンガードコードやカスタムABCで伴奏しているときも使えます。



コードをおさえて自動伴奏をだしてみよう。
フィンガードコード

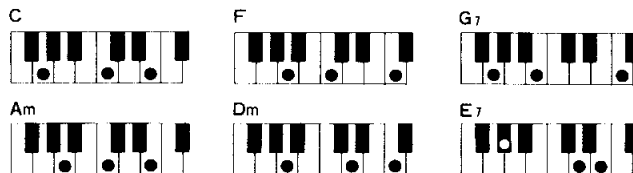
- ①オートリズムをセットしておきます。
- ②赤のフィンガードコードのボタンを押します。



- ③下鍵盤トーンレバーとペダル鍵盤トーンレバーをセットします。
- ④下鍵盤でコードをおさえてみましょう。

リズムに合わせて、コード伴奏とベース伴奏が自動的にできてくると思います。コード伴奏は、下鍵盤でおさえたとおりのコードできざまれますから、いろいろなコードを自由にだすことができます。なお、ベース伴奏はおさえたコードに合った音で自動伴奏されます。

[コードのおさえ方の例]



下鍵盤とペダル鍵盤で別々に自動伴奏をだしてみよう。
カスタムABC

- ①オートリズムをセットしておきます。
- ②白のカスタムABCのボタンを押します。



- ③下鍵盤トーンレバーとペダル鍵盤トーンレバーをセットします。

- ④下鍵盤でコードをおさえると同時に、ペダル鍵盤を踏みましょう。コード伴奏は、下鍵盤でおさえたとおりのコードできざまれ、ベース伴奏は、ペダル鍵盤で踏んだ音をもとに自動的にでできます。ベース伴奏のもとになる音を自由を選ぶことができるため、より高度な自動伴奏が得られます。

●コンスタント

このボタンを押すと、リズムに連動してでていた自動伴奏が、リズムと切り離されます。したがって、コード伴奏はコードの持続音になり、ベース伴奏は単音でてくるようになりますが、この伴奏の方が効果的な曲もあります。

CONSTANT



●ノーマル

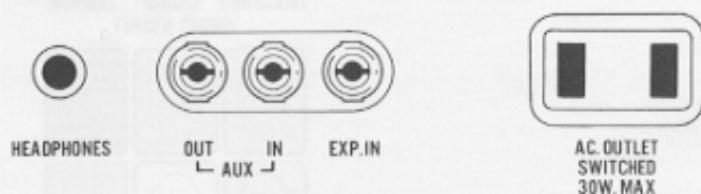
自動伴奏をキャンセルするボタンです。ふつうの伴奏をするときは、このボタンを押してください。

NORMAL



付属端子と音のエチケットについて

付属端子



●HEADPHONES(ヘッドホン端子)

ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます。(本体から出る音はモノラルです)ヘッドホンを使えば、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。

[インピーダンス390Ω]

●AUX.OUT(ライン出力端子)

アンプやトーンキャビネットと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたいときに使う端子です。また、テーブデッキのLINE-INジャックと接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。[インピーダンス470Ω]

●AUX.IN(ライン入力端子)

ステレオやテープの音をエレクトーンのスピーカーからだしたいときに使う端子です。レコード・テープの音に合わせて演奏することができます。[インピーダンス23KΩ]

●EXP.IN(エクスプレッション連動入力端子)

シンセサイザーやリズムボックスなどと接続するときに使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールできます。[インピーダンス47KΩ]

●AC.OUTLET(ACコンセント)

エレクトーンの電源スイッチと連動しているコンセントで、テープレコーダーなどの電源としてお使いください。電気掃除機、アイロン、電気コタツなど、消費電力の大きな器具を絶対に使用しないでください。万一使用しますと、エレクトーン内部のヒューズがとび、故障の原因となります。[許容電力30W]

音のエチケット

私たちの日常生活と音は切っても切れない関係にあります。音がしなくなったら、それこそたいへんですが、いくらきれいな音でも雑音と同じように感じるときだってあります。気持ちよく演奏していても、まわりの人には迷惑な場合もあります。特に、人が眠るような時間に音をだすことは、さげなくてはなりません。いくら窓を閉め切っても、音はどこからか伝わっていきます。そんな時は、ぜひヘッドホンを使って心ゆくまで演奏をお楽しみください。

音についても私たちはお互いにゆずりあい、やさしい心づかいを示すのがエチケットです。美しい音楽を愛されると同時に、住みやすい環境を守ってくださいますよう、皆さまのご協力をお願いいたします。



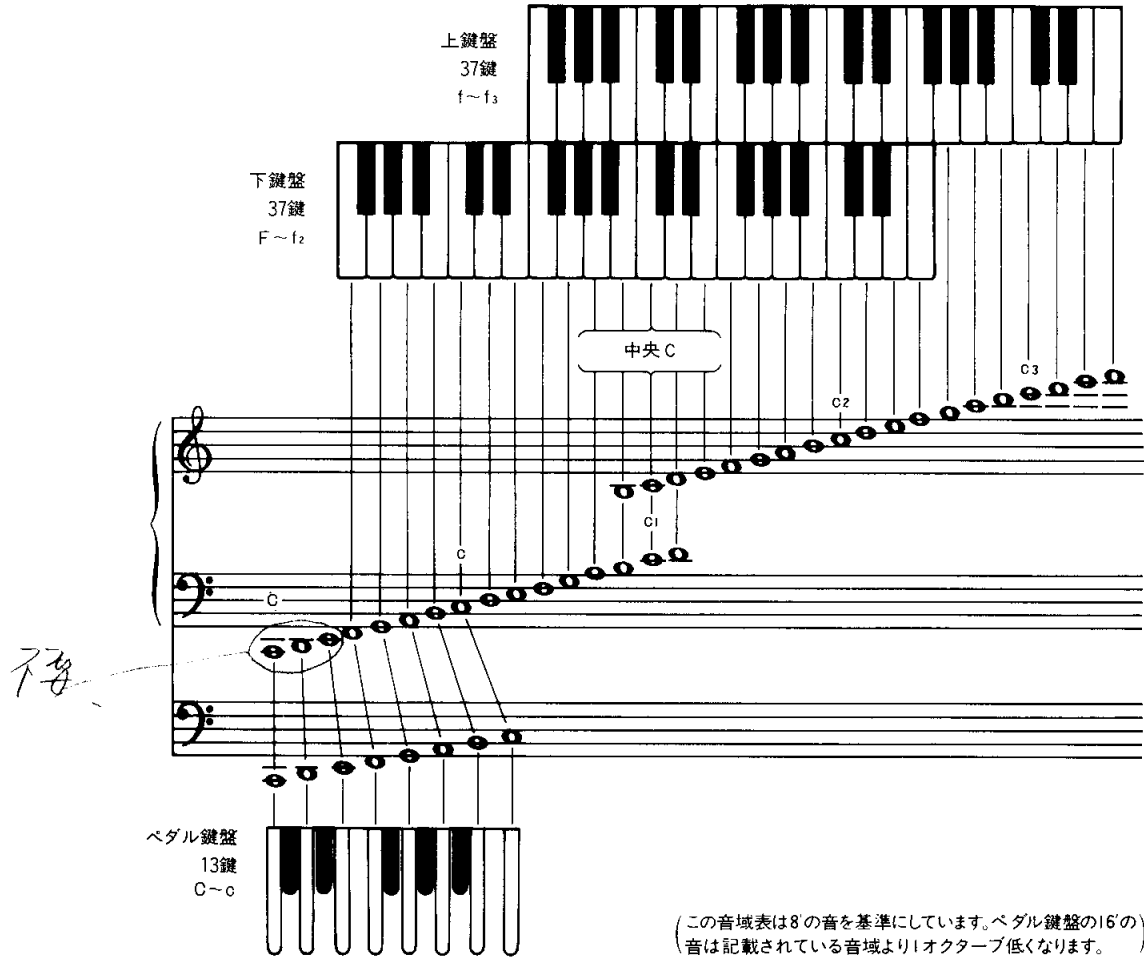
電子楽器専用ヘッドホン
HP-50A(別売)

仕様と音域表

仕様

- 鍵盤
 - 上鍵盤：37鍵 $f_1 \sim f_3$ (3オクターブ)
 - 下鍵盤：37鍵 $F \sim f_2$ (3オクターブ)
 - ペダル鍵盤：13鍵 $C \sim c$ (1オクターブ)
- トーンレバー
 - 上鍵盤：フルート16・8・4、トロンボーン16、クラリネット16、オーボエ8、ストリング8
 - 下鍵盤：フルート8、ホルン8 (ピアノ)、チェロ8 (ギター)
 - ペダル鍵盤：バス16・8
- スペシャルプリセット・カスタムボイス
 - スペシャルプリセット：ピアノ、ハーブシコード、ギター、ビブラフォン
 - カスタムボイス：フルート、サクソフォン、トロンボーン、トランペット
 - コントロール：スペシャルプリセットキャンセル、カスタムボイスキャンセル、アッパーアンサンブル、スペシャルプリセットボリューム、カスタムボイスボリューム
- エフェクト・コントロール
 - ビブラート=ディレイ・デプス
 - トレモロ/シンフォニックコーラス=アッパーフルート・アッパー&ロワーオーケストラ・ロワーフルート・トレモロスピードスロー/ファースト・トレモロ/シンフォニックコーラス
 - サステイン=アッパー16・8・4サステイン・アッパー・ペダル
- マニユアルバランス、マスターボリューム、エクスプレッションペダル、ニーレバー
 - メロディーオンコード
 - オン、モード、ボリュームソフト、ニー
- オートリズム
 - セレクトボタン：マーチ、ワルツ、スイング、スローロック、ジャズロック、ディスコ、タンゴ、ボサノバ、ルンバ、マンボ、サンバ、16ビート
 - コントロール：スタート、シンクロスタート、テンポ、ボリューム、テンポランプ、フットスイッチ
- オートベース/コード
 - ノーマル、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムABC、コンスタント、メモリー
- その他
 - パワースイッチ、パイロットランプ
- 付属端子
 - ヘッドホン、AUX、OUT、AUX、IN、EXP、IN、ACコンセント
- メインアンプ
 - 30W (8Ω)
- スピーカー
 - 30cm、5cm
- 定格電圧100V、定格消費電力35W、定格周波数50、60Hz
- 寸法・重量
 - 本体：間口105.2cm、奥行55.5cm、高さ93.3cm (譜面台を立てたとき107.9cm)、重量55kg
 - 椅子：間口60.0cm、奥行32.0cm、高さ55.5cm、重量5kg
- 外装
 - アメリカンウォルナット・メラミンフィニッシュ

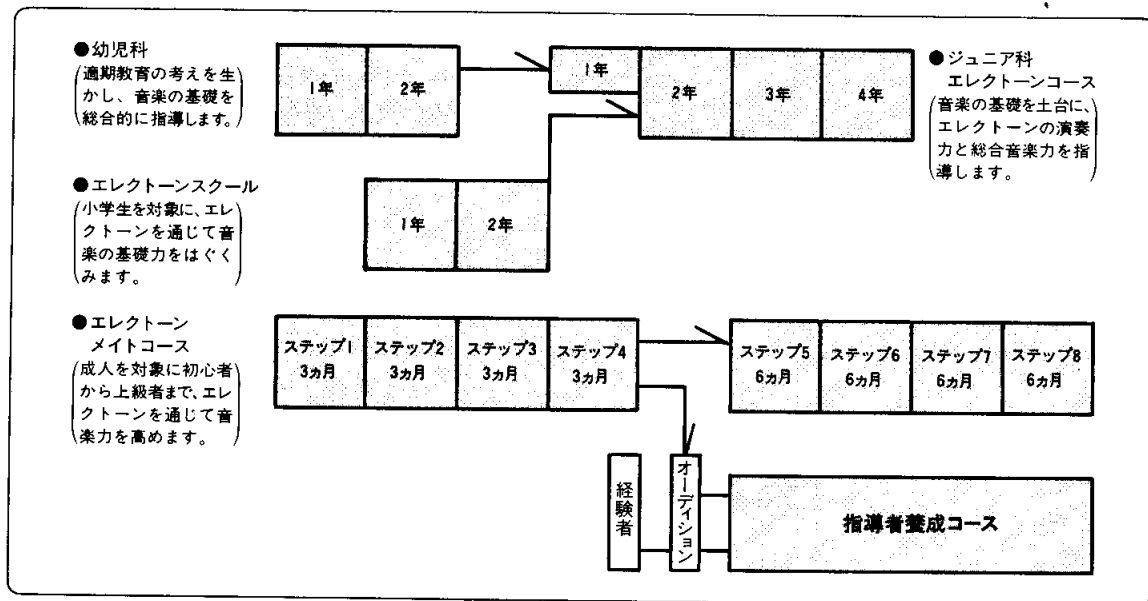
音域表



(この音域表は8の音を基準にしています。ペダル鍵盤の16の音は記載されている音域より1オクターブ低くなります。)

エレクトーン教室のご案内

お子さまに正しい音楽教育をとお考えのかたや、エレクトーンを自由自在に弾けるようになりたいというかたのために、ヤマハではエレクトーン教室を全国に開設しています。エレクトーン教室は、ご自宅や学校、お勤め先のすぐ近くにあり、どの教室でも《ヤマハ音楽教育システム》のカリキュラムによる指導を行っていますから、地区によって水準が異なるようなことはありません。エレクトーンをよりお楽しみいただくためにも、ぜひお近くのヤマハエレクトーン教室をご利用ください。



エレクトーンの出版物

●ABC曲集

シングルフィンガープレイを中心にしたファミリー向け曲集。

●エレクトーンメトード

エレクトーン演奏の基礎を体系的に学べる教則本です。

●ピアノからエレクトーンへ

ピアノ経験者のために編集したテキストです。

●ひきながら学ぶエレクトーン和声

エレクトーンの伴奏づけの基礎をまとめています。

●レッツプレイエレクトーン

13～10級の人のために編集されたサブテキストです。

●ジョイフルエレクトーン

初級者向けにアレンジされた曲が収められています。

●エレクトーンレパートリーシリーズ

9～6級を受験する人のためのレパートリー曲集です。

●エレクトーンヒット50シリーズ

ポケットサイズで一冊に50曲収めたメロディー譜曲集。

●エレクトーンファンファンファン

最新のヒット曲を中級者向けに編集しました。

●エレクトーンデュエット

レコードが付いたユニークな曲集です。

●エレクトーンラブサウンズシリーズ

愛をテーマにした名曲を選んだシリーズです。

●エレクトーンポピュラーシリーズ

ジャンル別にポピュラー音楽を選曲した曲集です。

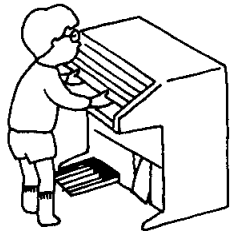
●エレクトーンクラシックシリーズ

クラシックの名曲をエレクトーン用にアレンジしました。

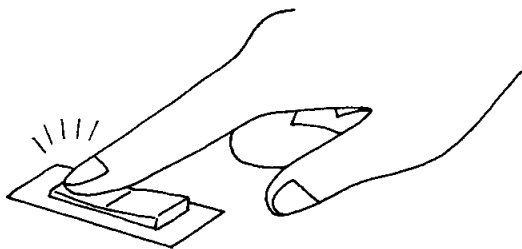
末永くお楽しみいただくために

エレクトーンをいつまでもお楽しみいただくためには日頃のお手入れがたいせつです。

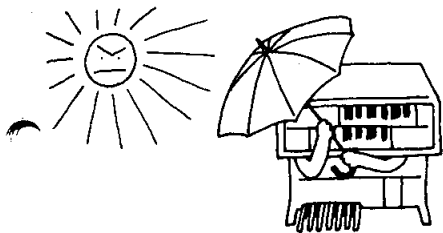
- スライドブタは上に持ち上げないようフタガイドにそって前後にゆっくりと開閉してください。



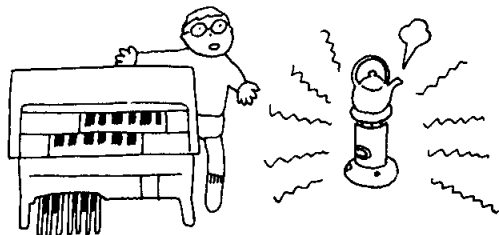
- スライドブタの上には重い物をのせないようにしてください。
- スライドブタの上にヘアピンやコインなどを置いたまま開けると、それが内部にはいて故障の原因になることがあります。
- 使用後は必ず電源スイッチを切ってください。



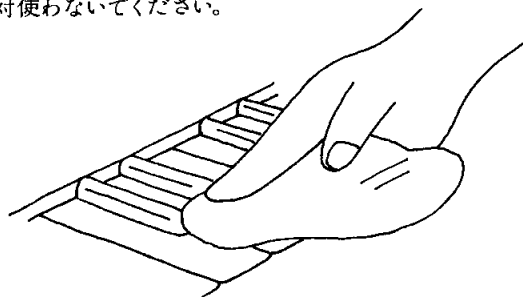
- 直射日光はさけてください。



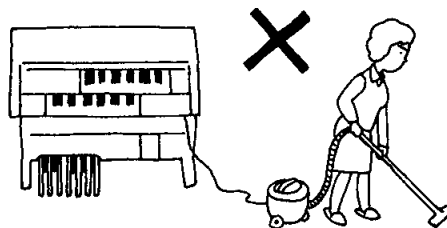
- 外装の塗装はビニールと化学反応をおこしますので、ビニール製のカバーはご使用にならないでください。
- 湿気や熱もさけてください。



- 鍵盤のお手入れは水を含ませた柔らかな布できれいにふきとって行ってください。アルコールやシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対使わないでください。



- テレビ、ラジオをエレクトーンの近くでお使いになると、テレビ、ラジオに雑音が入る場合があります。そのときはエレクトーンからできるだけ離してご使用ください。
- エレクトーンには交換用のヒューズはついていませんが、もしヒューズが切れたと思われる場合でも、絶対にご自分では交換をなさらないで販売店もしくは、電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。
- 長くご使用にならない時や、雷が鳴っている時などは、電源プラグをコンセントからはずしてください。
- 付属端子の横にあるACコンセントでは、電気掃除機、アイロン、電気コタツなど、消費電力の大きな器具を絶対に使用しないでください。



このような現象は故障ではありません

下記のような、故障でない現象でサービスを依頼された場合には、保証期間中であっても実費料金をいただきます。

現象	原因	解決法
スイッチを入れても、すぐに音がでない。	エレクトーンが正しく作動するためには、数秒の時間があるため。	エレクトーンが正確に作動する証拠です。ご心配いりません。
時々雑音が入る。(ガリツとかポツンという雑音)	①家庭の電気冷蔵庫、洗濯機など電気器具の電源ON、OFFのとき。 ②市街地のネオンサインの故障、電気ドリルなど。	①原因と思われる機器からなるべく離れたコンセントを使う。 ②ネオンなどの故障を修理する。 ③原因不明の場合は電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ等に雑音が入るときがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあるとき。	ラジオやテレビはなるべくエレクトーンから離してご使用ください。
ラジオやテレビ等の電波が入るときがある。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるとき。	どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
音が割れる。(共鳴する、あるいはビビる)	エレクトーンの音は持続音ですから、周囲の戸棚、窓ガラスその他の器物に共鳴することが多くあります。	①音量を小さくする。 ②共鳴物を取り除く。
ヘッドホンで練習のとき、ブーンという電気の雑音(ハム)が気になる。	本体のスピーカーで音をだしている時はあまり気にならないのに、ヘッドホンを使って練習する際ブーンという電気のうなり雑音(ハム)が気になることがある。	エレクトーン本体の電源プラグをコンセントへ逆にさしこんでみてください。
トーンレバーによって、鍵盤位置による音量のバラツキがある。	一般に電子楽器では音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量バラツキをなくすことは非常に困難です。エレクトーンではどの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。	音の強さや音色はエレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になる時はお求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑で(特に高音、低音では)実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律するので、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。	

現象	原因	解決法
ペダル鍵盤は同時に2音をおさえても1音しかでない。 また、上・下鍵盤は同時に8音おさえても、それぞれ7音しかでない。	ペダル鍵盤は1音、上・下鍵盤はそれぞれ7音ずつの音しかでないようになっています。これは、演奏上、設計上の理由からです。	ペダル鍵盤は高音優先、上・下鍵盤は先におさえた鍵盤の音を優先します。
セットしたトーンレバーの音がでてこない。	スペシャルプリセットやカスタムボイスが優先されているためです。	キャンセルまたはアッパーアンサンブルのボタンを入れてください。
スペシャルプリセットを使い、上鍵盤をレガートに弾くと、前におさえた音がでてくる。	スペシャルプリセットを使い、アッパーアンサンブルのボタンを入れた場合、上鍵盤をレガートに弾くと前におさえた音がもう一度発音されます。	
上・下鍵盤をおさえてもメロディーオンコードの音がでてこない。	①スペシャルプリセットをセットしているため。 ②上鍵盤トーンレバーをセットしていないため。 ③上鍵盤の低音域でメロディーを弾いているため。	①スペシャルプリセットをOFFにしてください。 ②上鍵盤トーンレバーをセットしてください。 ③上鍵盤の低音部(f~a#)では、下鍵盤でおさえるコードやモードのちがいによって、メロディーオンコードの音がでないことがあります。
オートリズムのボタンを一緒に2つセットしても、1つのリズムしかでてこない。	上下のリズムは、組み合わせてもきれいにならないので、組み合わせられないようになってます。下側のリズムが優先されます。	上下のリズムは、組み合わせないようにしてください。
オートベース/コードの音がでてこない。	オートベース/コードは下鍵盤およびペダル鍵盤のトーンレバーがセットされていなければ音はでません。また、オートリズムが作動していないときはリズムをきざまず持続音となります。	必ず下鍵盤、ペダル鍵盤のトーンレバーをセットしてください。また、リズム伴奏がしたいときは必ずオートリズムをONにしてください。
シングルフィンガーコードで下鍵盤の高い方をおさえても低い方をおさえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーコードでは定められた1オクターブの中の音がでるようになっていました。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置をおさえても同じ音程で和音がでできます。	
オートベース/コードでフィンガーコードとメモリーのボタンを押すと、おさえたはずの和音とは違った和音がきざまれる。	コードをチェンジするとき、瞬間的に関係のない鍵盤に触れて、それを機械がすばやくキャッチするためです。	①正確にコードチェンジを行ってください。 ②メモリーボタンをOFFにしてください。
下鍵盤が鳴りっぱなしになってしまう。	①オートベース/コードのコンスタントがONで、さらにメモリーもONになっているためです。 ②オートリズムがきざまれていて、メモリーがONになっているためです。	オートベース/コードのメモリーボタンをOFFにしてください。

サービスと保証について

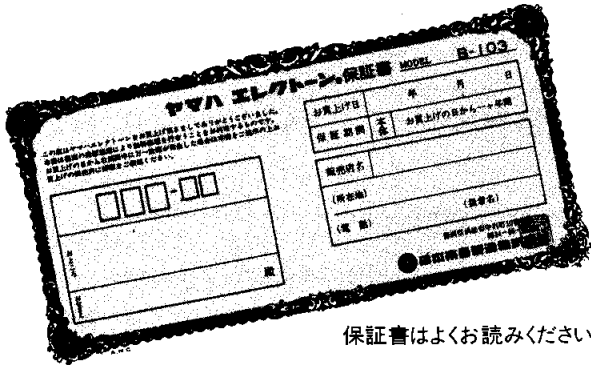
保証

エレクトーンのご購入は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1ヵ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンのイスの裏にあります保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけくださるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。
3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1ヵ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介いたします。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。

2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただきます。場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。

(20~21ページの「このような現象は故障ではありません」を参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当がつき、スムーズにいきます。

2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい

●ある時間だけ雑音ができる ●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音ができるなどの場合です。

3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。

症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

..お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。

2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。

3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハ電気音響製品サービス網

全国のヤマハ特約楽器店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔お客様ご相談窓口〕

東京電音サービスセンター	☎03(255)2241
	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4龍名館ビル4F
東京ステレオサービスステーション	☎03(255)2241
	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4龍名館ビル4F
東京電音サービスステーション	☎03(255)2241
	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4龍名館ビル4F
横浜電音サービスステーション	☎045(212)2223
	〒231 横浜市中区本町6-61-1
新潟電音サービスステーション	☎0252(43)4321
	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル
大阪電音サービスセンター	☎06(877)5262
	〒564 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター
大阪ステレオサービスステーション	☎06(445)6421
	〒550 大阪市西区江戸堀1-9-1肥後橋センタービル6F
大阪電音サービスステーション	☎06(877)5262
	〒564 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター
四国電音サービスステーション	☎0878(33)2233
	〒760 高松市南新町6-1 岡田ビル2F
名古屋電音サービスセンター	☎052(231)2432
	〒460 名古屋市中区栄1-8-7
名古屋電音サービスステーション	☎052(231)2432
	〒460 名古屋市中区栄1-8-7
北陸電音サービスステーション	☎0762(43)5341
	〒921 金沢市泉本町7-7
浜松電音サービスステーション	☎0534(56)9211
	〒430 浜松市東伊場2-14-1
九州電音サービスセンター	☎092(472)2137
	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
九州電音サービスステーション	☎092(472)2137
	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
広島電音サービスステーション	☎082(874)3787
	〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3
北海道電音サービスセンター	☎011(781)3621
	〒065 札幌市東区本町1条9-3
北海道電音サービスステーション	☎011(781)3621
	〒065 札幌市東区本町1条9-3
仙台電音サービスセンター	☎0222(22)6144
	〒980 仙台市大町2-2-10住友生命仙台青葉通りビル
仙台電音サービスステーション	☎0222(96)0249
	〒983 仙台市卸町5-7仙台卸商共同配送センター内

〔お預り修理窓口〕

東京電音サービスデポ	☎03(904)4986・4901	〒171 東京都練馬区高野台2-3-10
大阪電音サービスデポ	☎0720(32)1111	〒572 堺市川市松屋町19-8
名古屋電音サービスデポ	☎052(231)2432	〒460 名古屋市中区栄1-8-7
九州電音サービスデポ	☎092(472)2137	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
北海道電音サービスデポ	☎011(781)3621	〒065 札幌市東区本町1条9-3
仙台電音サービスデポ	☎0222(96)0249	〒983 仙台市卸町5-7仙台卸商共同配送センター内
広島電音サービスデポ	☎082(874)3787	〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3
浜松電音サービスデポ	☎0534(56)9211	〒430 浜松市東伊場2-14-1

〔本社〕

営業技術部 電音サービス課 ☎0534(65)1111
〒430 浜松市中沢町10-1

●アッパー

アッパーとは「上」という意味。エレクトーンでは上鍵盤関係のことをさします。

●アッパーアンサンブル(P.3、4)

スペシャルプリセットの音色やカスタムボイスの音色を上鍵盤トーンレバーの音色と組み合わせるボタンです。

●EXP. IN(P.16)

シンセサイザーなどと接続する端子です。

●エクスプレッションペダル (P.1)

演奏しながら音量をコントロールし、音に表情をつけるペダルです。

●ABC (P.12)

エレクトーンでは、オートベース/コード(Auto Bass Chord)のことを、頭文字をとってこう呼ぶことがあります。

●エフェクト

サステインやビブラートのような「効果」のことです。

●AUX. IN (P.16)

レコードやテープの音をエレクトーンから再生したい時、ステレオなどと接続する端子です。

●AUX. OUT (P.16)

テープに録音したり、他のアンプから音をだしたい時に接続する端子です。

●オクターブ

ある音に対して、8度の音程をもつ音をさします。したがって音名は同じです。

●オーケストラ音色 (P.2、6)

トーンレバーのうち、フルート以外の、ストリング、クラリネット、チェロなど、オーケストラで使われる楽器の音色をさします。

●オートベース/コード (P.12)

下鍵盤のコード伴奏とペダル鍵盤のベース伴奏がリズムに合わせて自動的に演奏される機能です。(オートリズムに連動します)

●オートリズム (P.10)

エレクトーン演奏のバックに、ワルツやロックなどのリズムを自動的に流す機能です。

●オルタネイティングベース

音階の1度と5度の音を交互にだす、基本的なベース奏法のこと、オートベース/コードを使えば自動的に得られます。

●音色

「ねいろ」のことです。エレクトーンのリバーやボタンには、フルートやストリングなどの音色名がついています。これは表示されている楽器の音をイメージしてつくられた“音色”です。

●音程

音と音との間隔のことで、同じ高さの音を1度音程、隣の音を2度音程、オクターブ上の音は8度音程です。

●音名

音の高さを呼びあわす名前のことです。日本語ではハニホヘトイロ、イタリア語ではドレミファソラシ。エレクトーンでは、特に伴奏をつける場合、アメリカやイギリスで使っているCDEFGABをよく使います。

●カスタムボイス (P.4)

カスタムというのは「注文してつくった」というような意味です。スペシャルプリセットと同じように自然楽器に近い音がセットされている音色で、音質レベルが高く、音色、音量も微妙に変化します。

●カスタムA-B-C (P.15)

ABCのボタンのひとつで、このボタンを選ぶと、下鍵盤とペダル鍵盤の自動伴奏が切りはなされます。

●カブラー効果 (P.2)

ひとつの鍵盤をおさえることによって、いくつもの鍵盤を同時におさえたのと同じような厚みのある音が得られる効果です。

●キャンセル (P.3、4)

スペシャルプリセット、またはカスタムボイスを使わない時に押しておくボタンです。

●クリックストップ (P.2)

トーンレバーやビブラートのレバーを手前にゆっくり動かしてみると、途中2カ所に軽い手ごたえがあって、レバーをセットできるようになっています。これをクリックストップ式といいます。

●減衰音

鍵盤をおさえ続けても、途中で自然に消えていく音です。スペシャルプリセットのピアノなどは減衰音です。

●コード

和音のことです。エレクトーンでは、主にコードによって伴奏をつけます。

●コードネーム (P.13)

和音の略記法のひとつで、和音の根音をアルファベットで表わします。Cはシーメジャー、Amはエーマイナー、G7はジーセブンスという和音のことです。

●根音 (P.13)

和音のもとになる音で、ドミソの和音ならドが根音です。コードネームは根音をアルファベットで表わします。ABCのシングルフィンガーコードで伴奏をつける時は、この根音をおさえるだけで自動的に和音が得られます。

●コンスタント (P.15)

ABCとオートリズムの連動をキャンセルするボタンです。

●サステイン (P.7)

鍵盤から指を離してもしばらく音が残る「余韻」をつける効果です。上鍵盤とペダル鍵盤の音に

それぞれかけることができます。

●持続音

鍵盤をおさえている間、ずっと持続してでてくる音です。エレクトーンの音色のほとんどはこの持続音です。

●シングルフィンガーコード (P.12)

ABCのボタンのひとつです。このボタンを選ぶと、下鍵盤でコードの根音(例えばドミソならド)をひとつおさえるだけで、コードとベース音が自動伴奏されます。

●シンクロスタート (P.10)

シンクロとは「時を同じくする」という意味です。エレクトーンでは、下鍵盤またはペダル鍵盤をおさえると同時に、オートリズムやABCなどをスタートさせるスイッチのことをいいます。

●シンフォニックコーラス (P.6)

複数の楽器で合奏しているときのような、広がりのある響きにする効果です。

●スタッカート (・)

音を短く切って軽快に演奏するように指示する記号です。サステインを使って演奏する時はスタッカートで弾いた方が、音がにごりません。

●ストリング (P.2)

「弦」のことです。エレクトーンには、弦楽器の音をイメージしてつくったストリング音色があります。

●スペシャルプリセット (P.3)

プリとは「あらかじめ」という意味。つまりあらかじめセットされた音色のこと、上鍵盤の音づくりに使います。単独でも、トーンレバー音色などとミキシングしても使えます。

●スラー (ー)

音を流れるようになめらかに、次の音に移行させる弾きかたを指示する記号です。

●セブンスコード (P.13)

三和音に7度の音を加えた和音で、G7、E7というように表わします。シングルフィンガーコードを使っている時は、下鍵盤と同時にペダル鍵盤の白鍵を踏むことで得られます。

●タイ (ー)

同じ音程の音符が続いて並んでいる時、指を離さないで続けて弾くことを指示する記号です。

●タブレット

エレクトーンのスウィッチのなかで、たて長のシーソースイッチをタブレットといいます。手前を押すとON状態になります。

●ダルセーニョ (D.S.)

曲の途中で、この記号のところまできたら、※記号までもどります。

●中央 C

鍵盤のほぼ中央にある音で、高音部譜表の下1線上に記されます。

●ディレイビブラート (P.6)

鍵盤をおさえてから、しばらくしてビブラートがかかる効果です。

●テンポランプ (P.11)

オートリズムをスタートさせている時、第1拍目に赤く点灯するランプです。


●テンポコントロール (P.11)

オートリズムのリズムがきざまれる速さ(テンポ)を調節するつまみです。

●トレモロ (P.6)

音をうねらせ、豊かな広がりをもたせる効果です。

●ニーレバー (P.7,9)

エレクトーンのパネル下にあるレバーで、ひざを右に動かして操作します。これを使うと、演奏中、意にサステインやメロディーオンコードが得られます。

●ノーマル (P.15)

「普通の」という意味で、ABCのノーマルボタンは、ABCをキャンセルして普通の演奏をする時に使います。

●パイロットランプ (P.1)

表示ランプのことで、これが赤く点灯すればエレクトーンに電気が流れていることを示します。

●ハーブシコード (P.3)

チェンバロともいわれ、16~18世紀頃によく使われた鍵盤楽器です。スペシャルプリセットにこの楽器の音をイメージしてつくった音色があります。

●ビブラート (P.6)

音をこきざみにふるわせ、うるおいをつける効果です。

●ファンブロック (P.12)

ファンとは「楽しみ」のこと。エレクトーンでは、自動的に伴奏が楽しめるオートベース/コードなどの機能をいいます。

●フィート (P.2)

音の高さを表すもので、'と書きます。もともとパイプオルガンのパイプの長さに由来しています。

●フィンガードコード (P.14)

ABCボタンのひとつで、この赤いボタンを押し、下鍵盤で和音をおさえると、コードとベース音で自動伴奏されます。

●フェイド・アウト

F・Oと表示されていることもあります。音楽では、音をしだいに小さくして、自然に消えていくような弾き方をするように、指示する記号です。

●フットスイッチ (P.11)

エクスプレッションペダルの左奥にあるゴムのスイッチで、右足の先で左に押して操作します。これを使うと、演奏中にリズムをストップさせることができます。

●フルート音色 (P.2,6)

エレクトーンのもっとも基本的な音色で、いろいろなレジストレーション(音づくり)のもとになります。音程も一番多く用意されています。

●ペダル (P.5)

エレクトーンでは主にペダル(足)鍵盤関係のことをさします。

●ヘッドホンジャック (P.16)

ヘッドホンを接続する端子です。夜間の練習などにご利用ください。

●マイナーコード (P.13)

短調の和音です。Am、Emのように表わします。ABCのシングルフィンガーコードを使っている時は、下鍵盤と同時にペダル鍵盤の黒鍵を踏むことで得られます。

●マスターボリューム (P.1)

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみです。

●マニュアル

手鍵盤のことです。

●マニュアルバランス (P.5)

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを調節するレバーです。

●メジャーコード (P.13)

長調の和音のことで、C、Fというように表わします。ABCのシングルフィンガーコードを使っている時、下鍵盤をひとつおさえると、その音を根音にしたメジャーコードが得られます。

●メモリー (P.14)

ABCを使って自動伴奏している時、このボタンを押すと、下鍵盤から指を離しても、同じ伴奏が自動的にくり返されます。

●メロディーオンコード (P.8)

上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーを自動的に重ねる機能です。ハーモニーの音は、下鍵盤でおさえたコードの音から自動的に選ばれます。

●リタルダンド (rit.)

曲の終わりなどに、テンポをだんだん遅くして弾くように指示する記号です。

●臨時記号 (#、b、♮)

曲の途中で、音の高さを一時的に変える記号です。半音上げる#(シャープ)、半音下げるb(フラット)、もとの音にもどす♮(ナチュラル)などがあります。

●レガート

「なめらか」に演奏するように指示する記号です。スラーよりもっと広範囲な表現で、全体に音を切らずに演奏します。

●レジストレーション

演奏にあたって、その曲想に合った音づくりをするためにエレクトーンのパネルやボタンなどの組み合わせを決めることです。

●ロワー

ロワーとは「下」のこと。エレクトーンでは主に下鍵盤関係のことをさします。

本 社 / 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(65)1111

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル
TEL. 03(572)3111

大阪支店 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心齋橋ビル東館
TEL. 06(251)1123

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. 052(201)5141

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2151

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL. 011(512)6111

仙台支店 / 〒980 仙台市大町2-2-10
TEL. (022)22-6141

広島支店 / 〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F
TEL. 082(221)4122

浜松支店 / 〒430 浜松市田町32/東京海上ビル
TEL. 0534(54)4116

エレクトーン®は当社の登録商標です。



YAMAHA

日本楽器製造株式会社